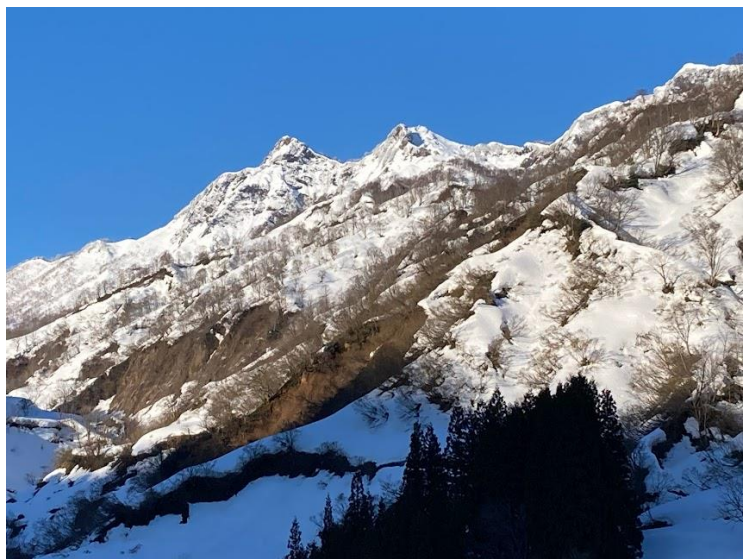


# 頸城・吉尾平～鉢山コル 周遊

T野

2023年3月19日

メンバー：T野・A原・T山・K尻



実は「吉尾平」は、30年以上前から気になっていた場所である。当時の山スキーのバイブル、「山スキールート図集」に「日本のバルト口氷河」と形容され、当時、その絶景に夢を馳せていた。いつか行ってみたいと思いつつ30年以上、行きそびれていた理由はいろいろあるが、最大の理由は、「絶景だけじゃなあー？」という一味足りない消極的な感じかな……。このルートはピークを踏もうとすれば鉢山になるが、実はこの山、一筋縄ではいかず、コルから上は短いながら登攀具一式必要なアルパインルートで、山スキーでお手軽にというわけにはいかない。しかし、僕的には山スキーでもピークを踏みたいという気持ちは少なからずあり、ついつい選択肢から外れてしまったところは否定できない。さらに、この付近には、火打・焼山・昼闇山・高松山といった日本でも指折りの素晴らしい山スキールートが目白押しで、空沢山・放山といった、手軽に滑降が楽しめる快適ルートもあって、どうしてもそっちを優先してしまい、なかなか順番が回ってこなかった、というのも本音である。

■写真上 阿弥陀・烏帽子のモルゲンルート！！

■写真中 阿弥陀山の岩峰群。

■写真下 昼闇谷を横断する。

しかし、改めて最近の記録を調べると、絶景だけでなく、ルート次第で滑降もかなり楽しめるらしいので、「それなら！！」と、ここ数年は毎年チャンス伺っていた。ただ、遠方地ゆえ、日程、悪天候、積雪量、メンバーなど様々な理由からなかなか実現できずにいた。



今回は、天候は申し分なし、前日に雪が降ったので、雪質は行ってみないとなんともいえないが、滑降ルートは北斜面なので一縷の望みは持てそうである。まあ、ストップ雪だったとしても、前日の雪で化粧直した岩峰群は一見の価値はありそうだ！！ということで、今日も元気に出陣である！！

今日中に帰らないといけないのと、長丁場が予想されるので早めの出発を心掛け、焼山温泉へ。すでに多くの車が止まっている。ほとんどの人は昼闇山に向かったようである。我々もさっさと準備して6:15に出発。スキー場跡を緩やかに登り、しばらく林道を行く。やがて、杉の植林帯になるとアケビ平である。この辺り、多くのトレースに交じってスノーモービルのキャタピラの跡も多い。先週だったか、T村さん達が昼闇山に行ったときの昼闇谷は、スノーモービルのキャタピラでギタギタにされていたと言っていた。さらに、最近では頸城の秘峰、「昼闇山」の山頂までスノーモービルが登ってくるらしいということも……。その点では、吉尾平ルートは、昼闇谷以外に、もう一つ顕著な谷の横断があり、これらの谷を横断する場所の地形が結構厳しく、スノーモービルは入りにくいようだ。ということで、スノーモービルのトレースは全て昼闇谷へと向かい、吉尾平ルートはスキーとスノーシューのトレースのみでホツとする。2つ目の谷を横断してしばらく歩くといよいよ吉尾平の入口である。

- 写真上 吉尾平の入口。
- 写真中 絶景の吉尾平を行く。
- 写真下 鉢山のコルを目指して。

この辺りから望む阿弥陀山・烏帽子岳などの岩峰群が雪を纏った姿はまさに「絶景」！！1500mクラスの山とはとても思えない。近づくにつれ迫力が増し、吉尾平のおだやかさとは対照的で



「怪峰」「峻峰」「鋭峰」「秘峰」などの称号をほしいままにしている。それに比べて、吉尾平の居心地の良さと言ったら……下部は明るいブナ林で、木の間越しに岩峰群が見え隠れし、上部は巨大な氷河のような大雪原！！新たに鉢山も加わってドーンと迫力のある岩峰群に囲まれ、「バルトロ氷河」という表現もあながち大きさではない(行ったことないのであくまで想像の世界ではあるが……)。アプローチがやや長いのが難点ではあるが、確かにここは、一見の価値はある素晴らしいところである！！

だから、というわけではないが、ここを訪れる際は必ず晴天時に来てほしい。そして、できれば降雪直後の岩峰群が雪を纏っているときを見逃さないで欲しい。そうすれば、きっと日本離れた素晴らしい絶景を自身の眼にしっかりと焼き付けることができるであろう！！



■写真上 吉尾平から鉢山コルへのルートは絶景ロード！！

■写真中 鉢山コルから鉢山の雪稜を望む！！

■写真下 コルから望む雨飾山は迫力満点カッコいい！！



さて、確かに吉尾平の景色は素晴らしいのだが、ここから鉢山のコルがはるか彼方に見え、「あそこまで行くのかあー」と思うだけでいささかげんなりしてしまう。ここまで、歩けど歩けど標高はさして上がらず、ここからは貯めていた分、一気に標高差 500m登るのだ。しかし、「心配ご無用！！」行ってみればわかるが、実は見た目より近いのだ。それに、この登りのロケーションは、ホント疲れを忘れさせてくれるほど素晴らしい！！背後の雪を纏



った阿弥陀・烏帽子の岩峰群がみるみる競り上がっていき、眼前に聳える鉢山も登るにつれ、精悍な姿に変化していき、まるで、ヒマラヤをトレッキングしているような気になるから不思議である。そして、コルに着くと、今まで見えなかった反対側の景色が一気に広がる！！

一番印象に残る山は何といっても雨飾山だ！！雨飾山は、この付近の主な山々と比較すると標高が低く、姿・容は良いのだが、残念なことに、それらの山頂から望むと多くの場合、見下ろすことが多い。しかし、ここ鉢山のコルは標高が約1450m、ちょうど見上げる高さにある雨飾山は、最初見えた時「いったいあの高峰はどここの山？」と思うくらい迫力があつた。さらに、その奥に広がる銀屏風は北アの雪倉辺りだろうか？見慣れない角度から望む山々は新鮮で感動的、ここはまさに「絶景自慢の山」である。

■写真上 雨飾山バックに旧友K尻と。

■写真中 さあ、お絵かきタイム！！

■写真下 A原さんカツ飛び！！

コルから標高差50mほど登ると、滑降予定の北面の斜面が見えてくる。1500m付近を今日の終了点として滑降の準備をして、いよいよこの斜面に飛び込む。最初は少し硬いバーンだったがすぐに快適な雪質になる。日差しが強く、時間も正午を回ったので雪は腐っていても仕方がないと思っていたが、果たして今日は雪が生きていた！！これは、もう



「パウダー」といっても過言ではないのでは……！！ 緩急自在の斜面も変化に富んでいて素晴らしい！！さらに右側の広い谷に入れば……何と、そこには広大な一枚バーンが潜んでいた！！昨日、雪が降って以前あったトレースのほとんどを消し去ってくれたので、ほぼファーストトラックに近い状態である。贅沢にも、この広大な斜面にメンバー全員で好きなようにお絵かきを楽しんだ！！登りのきつさを忘れる最高の瞬間だ！！

K尻の豪快な滑りを見ていた、A原さんが思わず「カッケイー！！」と声を出し見惚れている。でも、そういうA原さんも、ここではK尻に負けないくらい「カッケイー！！」滑りをしていた。何よりA原さんほど楽しそうに滑る人、そうそういないから、見ているこっちもついつい楽しくなってきた。また、T山さんもスピードはそれほどないが、なぜか写真映えがよく、だれよりもフォームが綺麗に写っている……！！やっぱ基礎がしっかりしている

からのかなあー。

今回、ラッキーなことに雪質が、いい方に転んでくれたおかげで、我々は転ぶことなく快適に滑って、素敵な時間が過ごすことができた。天気の様子の采配には感謝しかない。

昼間谷を右岸に渡るまでの標高差約600mはホント夢のように素晴らしかった！！その後、雪は腐り始めたが、これは全くの想定内。まずまず板も走り、かなり山深い場所まで行った気になっていたが、滑り始めたらあっという間で休憩込みで、1時間20分ほどで麓に降りてきてしまった。まさにスキーだからこそなせる業である。

■写真上 権現岳・鉾ヶ岳を眼下に滑降！！

■写真中・下 ヤバッ！！またまた出てきた大斜面！！ファーストトラック最高！！

全て終わって振り返ってみると、再訪しても良いと思える気持ちの良いルートだった。「ピーク踏めないとなあー……」などと





考えていたのが嘘のように気にならず、絶景と快適な滑降が楽しみ満足感いっぱいの山行となった。また、ここはスキーがなくても、吉尾平にテントを張って、鉢山のアルパインルートに登攀すれば、雪山派の人達にもお薦めしたいところである。いつか集中登山とかやっても面白いと思う。

■写真 昼闇谷源頭部もいい感じだね！！モービルがないときにぜひ行きたいね！！

さて、しっかり動いたので温泉！！ということで、笹倉温泉へ(¥850)へ。しっかり汗を流してさっぱりしたら腹も減り、打ち上げは国道8号線沿いにある「サンパレスルート8」へ。K尻が頼んだ唐揚げ定食はボリューム満点で驚くほどリーズナブル！！僕が頼んだチャーシュー麺もチャーシューが美味しくて満足！！久しぶりにK尻と一緒に滑れたのも良かった。いつもながら、一緒に遊んでくれたメンバーには感謝！！また宜しくお願いします。

#### ■コースタイム

焼山温泉(6:15)～(7:30)アケビ平～(8:00)昼闇谷横断地点(8:25)～(9:30)吉尾平～(11:40)鉢山コル(11:50)～(12:00)1500m地点(12:25)～(13:00)昼闇谷横断地点(13:10)～(13:50)焼山温泉  
距離 14.8km 標高差 1215m